

回	第1回	日時	令和4年6月27日(月)17:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員17名/20名中 事務局6名
主な内容	・委嘱状交付 ・委員長・副委員長任命(作野広和委員長・信藤一郎副委員長に決定) ・飯南町総合振興計画の概要説明 ・飯南町教育行政方針 ・児童・生徒数の今後の推移 ・スケジュール ・意見交換 ・		
意見等 (順不同)	【委員の自己紹介を兼ねて飯南町の教育に関する自由意見】 ・特に志々地区の児童数が減少していると感じる。 ・昔は地域で子育てをしてもらっていた。地域とのつながりが大事だ。 ・保小中高一貫教育の取組がどのようなものか、もっと知りたい。 ・児童・生徒数が減ると部活動にも影響が出る。 ・生命地域教育は、地域と密着したとても良い活動である。 ・教育環境は学校教育のみならず、家庭教育や社会教育も重要である。 ・小学校だけでなく、中学校もどうあるべきか議論する必要がある。		



回	第2回	日時	令和4年8月30日(火)18:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員15名/20名中 事務局6名
主な内容	・保小中高一貫教育について(キャリアパスポート) ・教育現場の現状と課題 ・飯南町における教育のあるべき方向性		
意見等 (順不同)	【保小中高一貫教育】 ・満足度、学校評価についてアンケートをとってみては。 →現在は、学校評価委員会で評価いただいている。 ・キャリアパスポートについて詳しく知りたい。 →キャリアパスポートの取組はまだ2年目であるので引き続き周知していきたい。 ・キャリアパスポートは進路実現のために活用できると期待している。 【教育現場の現状と課題】 ・複式学級について、もっと知りたい。 【町における教育のあるべき方向性】 ・社会教育や、地域と学校の連携についてもっと話したい。		

「地域と学校の未来シンポジウム」 講師:作野広和教授(島大教育学部)

回	第1回に併せ実施	日時	令和4年6月27日(月)19:00～
場所	来島交流センター	参加者	50名
主な内容	・講演会テーマ「みんなでつくる地域と学校」 - 子どもをとりまく環境の変化、学校の適正規模、 - 学校再編をめぐる近年の傾向、求められる持続可能社会、 - 複式学級の学習、島根県における小学校再編の類型、 - 県内の事例(邑南町・安来市・奥出雲町)、コミュニティスクール、 - 地域学校協働活動、学校と地域との関係構築ステップ、 - 保小中高一貫教育、飯南町において取り組みが必要な要素 (定住・子育て・学校教育・社会教育・地域づくり)		
意見等 (順不同)	【講演のアンケートより】 ・規模よりも教育の在り方を考えることが大切である。 ・学校と地域の関わりが大切だと思う。 ・地域で学校を支援し、学校が地域づくりの核となると良いと思う。 ・少人数だからこそ、できることがある(少人数の良さを活かしたい) ・大人の意識を変えていくことが大切。 ・社会教育、地域づくり、大人教育、定住者へのフォローなどが重要。 ・子どもを取り巻く社会に関心を持つべきである。 ・社会教育についてもう少し理解を深めたい。 ・今後の中学校の部活動をどうすべきか考えたい。 ・委員以外の声を広く聞く場を積極的に作ってほしい。		



回	第3回	日時	令和4年11月16日(水)19:00～
場所	来島交流センター	参加者	委員14名/20名中 事務局6名
主な内容	・学校評価委員会による小・中・高の現状 ・教育を取り巻く状況(国の現状…部活動の地域移行・コミュニティ・スクールについて) ・教育を取り巻く状況(町の現状…複式学級、児童数について) ・今後議論すべき論点の整理		
意見等 (順不同)	【学校評価】 ・子どもたちの評価結果だけでなく数字には出てこない子どもや保護者の気持ちをくみ取ることが大事。 ・飯南高校は生徒の状況を把握しやすいのが小規模校のメリットである。 ・支援を要する児童生徒に、SSWやSCの相談体制や福祉事務所と連携した相談ネットワークの相談支援体制がある。 【部活動の地域移行】 ・地域によって実情は様々であり、保護者からも多くの意見が出ている。 ・少子化で今後、団体競技の部活動が難しくなってくる。 ・先生方の働き方改革も重要だが、子どもたちと先生の関わりも大切であり、様々な視点から考えていく必要がある。 【コミュニティ・スクール】 ・学校と地域住民の関わりは飯南町は進んでおり、すでにコミュニティスクールのような動きがあるように思う。 【複式学級】 ・複式学級には一長一短があることがよく分かった。 ・学校が統廃合されれば単式は維持できるが、一歩で通学については課題が残ると思う。 ・3学期には学校訪問を計画し、実際の現場を見てみたい。		